

「刈谷市共存・協働のまちづくり推進基本方針」

を知っていますか？

まちづくりの基本理念や、まちづくりに関わる人々の心構えや役割などが明文化され、「共存・協働のまちづくり」を推進していくための環境が整えられました。これからは、この基本方針をもとに具体的な施策が展開されていきます。

市民の皆さんも
一緒に考えた
基本方針なんだよ。



共存・協働のまちづくりを担う主体

刈谷市では共存・協働のまちづくりを担う主体を以下に定め、役割も明示しています。



市民	市内在住・在勤・在学の人
地域団体	地域を縁として活動を行う団体
市民活動団体	公益的な活動を行うNPO団体
事業者	企業・商店など
教育機関等	学校や病院などの専門機関
行政	市役所

基本理念

1

主体的・自立的・自発的に考え、行動する

2

お互いの存在・個性・組織文化を理解・尊重し、お互いのよさや能力を活かしあう

3

お互いの弱点を補いあうとともに、まちづくりに貢献できる存在となるために、自らの成長や改善に努める

4

市民やまちをよくする活動となるために、お互いが納得するまで話し合っ、共有できる目標を立てる

5

対話・理解・共感を大切にし、信頼関係を構築する



基本理念には、
協働がうまくいくコツが
書かれているね。

(2009年10月20日発行)

発行責任 刈谷市役所 市民協働課

刈谷市東陽町1丁目1番地

電話：0566-62-1058

FAX：0566-24-2466

Email：kyodo@city.kariya.lg.jp

編集 刈谷市民ボランティア活動支援センター

(指定管理者:特定非営利活動法人NPO愛知ネット)

刈谷市寿町1丁目409番地

電話：0566-62-8231 FAX：0566-62-8232

Email：kcv109box@katch.ne.jp

「刈谷市協働事例集 ぼらっちくんのこらぼレポ」は、刈谷市と市民ボランティア活動支援センター指定管理者との協働で作成されました。

ぼらっちくんの こらぼレポ Collaboration Report

——刈谷の協働事例を紹介します。



最近よく聞く「市民協働」って何？

「市民協働」とは、同じ目標を達成しようとする自治会や市民活動団体、企業、行政などがお互いの役割を理解し、それぞれの特長を活かしあいながら、まちの課題解決に取り組んでいくことです。



どうして今、協働なの？

都市化、少子高齢化が進むなか地域のつながりが弱くなり、暮らしのなかの困りごとを家族や隣近所では担いきれなくなりました。また、行政も市民一人ひとりの多様なニーズに十分に 대응することが難しくなってきました。

多様化し、複雑なニーズを解決するには、市民、自治会、市民活動団体、企業等が、地域の課題を「自分ごと」と捉え、団体同士が共に取り組むことが重要になってきたのです。



協働するとどんないいことがあるの？

同じ目的を持つ団体が一緒に活動すると、お互いの強みを活かしあい、弱みを補うことができるため、大きな成果につながります。自分たちができることから少しずつ経験を積み重ねていくことで、大きなまちづくりの力になっていくのです。

1+1は、時には3にも4にも…。

刈谷市でもいろいろな団体が協働して活動しています。どんな協働事例があるのか、一緒に見てみましょう！ → 次ページへ

※文中に登場するNPOとは、市民活動団体、法人を含めた広義のNPOを指します。

学校 × 企業

事例①:「北っ子の森」を環境教育の場に！

協働事例（2001年～現在）

富士松北小学校に隣接する雑木林「北っ子の森」に竹がはびこり、荒れていた。森を子どもたちの学習の場としたい学校の呼びかけで、(株)デンソーの企業ボランティアと保護者有志で竹切りを行い、森が整備された。



学校の成果

企業の成果

富士松北
小学校

想い

北っ子の森を子どもたちの遊び場に、また環境教育・情操教育の場として活用したい。

探す

森を整備する指導者、手伝ってくれる人を探していた。

森を学校行事、環境教育など、様々な活用の場として展開できた。伐採した竹を竹炭にする取り組みも始まった。

地域（学校）と一体となり、環境ボランティア活動に取り組み、多くの社員参画につながった。

(株)デンソー
ボランティア
支援センター

想い

豊かな自然を守り育てる活動に地元企業として寄与したい。

強み

森林ボランティアやカキツバタ除草作業などのボランティアの経験者がたくさんいた。

NPO NPO法人 × 企業

事例②:作業所の自主製品づくりに協力

協働事例（2009年）

かきつばたフレンズの小規模作業所「かきつばたワークス」は、アイシン精機(株)などからネクタイの提供を受け、自主製品（ネクタイポーチ）の増産を図った。その後もネクタイを活かした商品の販売促進について一緒に企画している。



NPO法人の成果

企業の成果

NPO法人
かきつばた
フレンズ

想い

部品加工などの受託事業よりも、自主製品事業の比率を高めて、活性化を図りたい。

探す

ネクタイポーチを作るために必要なネクタイを探していた。

多様なネクタイポーチなどの作品ができ、自主製品事業としての展開ができた。

社員のボランティア活動の活性化につながった。また新しい協働の糸口につながった。

アイシン精機(株)
さわやかふれあい
センター

想い

地域に密着した企業市民活動の場をより増やしていきたい。

強み

大勢が参加している社員のボランティアグループがある。



刈谷市協働事例集

ぼらっちくんの こらぼレポ Collaboration Report

アクション編 その2

誰もが気軽に参加できる協働の場があります。

活動団体の皆さんと交流し、ネットワークを広げたい。刈谷のまちを良くするために意見を提言したい。そんな方に、協働のまちづくりに気軽に参加できる場があります。

わがまちのつむぎ場

活動団体交流会



開催時期：夏頃（年1度開催）

さまざまな分野で活動をしている団体が一堂に集まる「出会いの場」、それが「わがまちのつむぎ場」です。

「新たな仲間が生まれる交流」と「共感しあえる仲間との交流」を目的として開催しています。

活動内容やまちづくりへの想いを楽しく語り合いながら、団体同士の学び合いや支え合いが生まれる機会をつむいでいきます。

つむぎ場
参加者の声

共感してくれる人に出会えました。

交流の場での団体アピールの方法が学べました。

私たちの活動をPRできました。

各地区の課題を聞くことができました。

▶たくさんの感想が寄せられ、協働の木に「言の葉」が付きました。



わがまちのしゃべり場

共存・協働のまちづくり



開催時期：秋頃（年1度開催）

「まちの問題をどう解決する？」「地域の絆を結ぶには？」刈谷のまちがもっとよくなるために、いろいろな価値観や考え方を持つ人たちが、お互いの立場を尊重しながらまちへの想いを語り合う「井戸端会議」。

それが「わがまちのしゃべり場」です。

しゃべり場
参加者の声

幅広い年齢層の人と話せて、たくさんの気づきをいただきました。

こうした「場」の積み重ねが必要と思う。

意識を高め、よいまちづくりに参加するようになった。

自分にできることは何かを考えるきっかけになった。

市民のパワーを感じた。

みんなの問題意識が似ていることに気付いた。

アクション編 その1

「協働したい」と思ったときのお役立ちツールあります。

協働事例を見て、自分たちもいろいろな団体と協働したいと思ったあなた。そんなときは、以下の相談先・役立ちツールを活用してください！

まずは、どんなプロジェクトをやりたいのかを考えてみよう！

- ① どんな目的のため？
- ② 協働できる・協働したい団体はある？

わからないことがあれば、市内の相談先を活用してください。

プロジェクトをどう運営
していったらいい？

プロジェクト運営の資金
はどうすればいい？

どんな団体と協働したら
いい？

市役所の担当課、地域団
体(公民館や自治会など)
について知りたい！

刈谷市民ボランティア活動支援センター

- 刈谷市内の市民活動団体についての問合せ
- 助成金の相談
- プロジェクト運営についてなど、ご相談ください。



【問合せ】 住所：刈谷市寿町1丁目409番地
TEL:0566-62-8231 FAX:0566-62-8232
E-mail:kcv109box@katch.ne.jp
開館時間：10:00～21:00(日曜:10:00～17:00)
休館日：毎週月曜日

かりや市民ボランティア活動情報サイト

<http://www.genki365.com/kariya/>

刈谷市内を拠点に活動する市民活動団体(センター登録団体)の活動内容やPR情報がインターネット上で閲覧できます。



刈谷市役所 市民協働課

- 市民活動団体の交流会「わがまちのつむぎ場」
- 共存・協働のまちづくり「わがまちのしゃべり場」を開催しています。(7ページ参照)

【問合せ】 TEL:0566-62-1058
E-mail:kyodo@city.kariya.lg.jp

行政

×
NPO

市民活動団体



協働によって、
刈谷の名所が
誕生したんだ。

事例③：刈谷の産業遺産を多くの人にPR

協働事例 (2007年～2009年)

依佐美送信所記念館の案内・ガイドを「依佐美送信所記念館ガイドボランティアの会」が行い、送信所の歴史を後世に伝えていく仕組みができた。

刈谷市役所
文化振興課

思い

貴重な産業遺産(依佐美送信所)を保存し、後世に伝えていきたい。

探す

記念館の来館者に、送信所の歴史的価値について説明できる人を求めている。

行政の成果

依佐美送信所を熟知している専属のボランティアグループが参画することで、記念館の価値が上がった。

市民活動団体の成果

自分たちの持っている送信所の知識やノウハウを活かせる活動の場ができ、やりがいも持てた。

依佐美送信所
記念館ガイド
ボランティア
の会

思い

送信所の果たした役割や歴史的価値を、後世まで語り継ぎたい。

強み

依佐美送信所に勤めていたOBや、送信所に思い出のある地域住民がいる。

行政

×
NPO

市民活動団体



活動の目的が
同じだからこ
協働できたん
だね。

事例④：男女共同参画社会をめざして啓発

協働事例 (2007年～2009年)

刈谷市の男女共同参画イベント「あなたとわたしのハーモニー」にて、市役所と男女共同参画推進市民グループ「ぼこの会」が連携し、講座やワークショップなどを開催した。「ぼこの会」は、イベントの企画立案から当日運営まで関わった。

刈谷市役所
市民協働課

思い

男女共同参画社会を実現するために、市民から共感を得られるイベントを開催したい。

探す

市民の視点・想いをカタチにしてくれる市民活動団体を探していた。

行政の成果

市民活動団体に、講座を企画してもらい、運営を任せることで、イベントの充実が図れた。

市民活動団体の成果

自分たちで企画した講座を提供して、市民への意識啓発ができた。また、自分たちも企画運営力の向上につながった。

ぼこの会

思い

男女共同参画社会を実現するため、市民への啓発を図りたい。

強み

活動経験をとおり、市民ならではの企画立案ができる。

地域

×
NPO
NPO法人



事例⑤：地域の子どもたちと工作教室

協働事例（2008年～2009年）

刈谷市西境地区の自治会では毎年、夏休み文化体験教室を市民館で開催していた。プログラムを刷新するために、刈谷おもちゃ病院の工作教室の企画運営を依頼した。



地域の成果

NPO法人の成果

刈谷市
西境自治会

想い

子どもたちが楽しみながら、ものづくりに関心を持てるイベントを開催したい。

探す

子どもたちにもものづくりを指導してくれる団体を探していた。

「青竹工作教室（竹のオブジェづくり）」という新しいプログラムを提供でき、子どもたち・保護者にも大変喜ばれた。

地域の自治会活動と協働した初めてのプログラムで、地域での活動のきっかけとなった。

特定非営利
活動法人
刈谷おもちゃ
病院

想い

団体ミッションの一つである、地域との世代間交流を図っていききたい。

強み

企業で培ったスキルを活かして、ものづくりが得意なメンバーが集まっていた。

NPO
NPO法人
×
NPO
市民活動団体



事例⑦：父親の育児参加で同じ分野が協働

協働事例（2008年～2009年）

子育て・子育てNPOスコップが、父親の育児参加啓発のため、「パパズライフ・プロジェクト」を企画。野外活動が得意なリトルハウスと協働して、父親と子どもが一緒に楽しめる野外イベントを開催した。



NPO法人の成果

市民活動団体の成果

子育て・子育て
NPOスコップ

リトルハウス

野外活動メニューを取り入れたイベントができ、充実したプログラムになった。

プロジェクトの事業展開を参考にすることができ、今後の活動に活かしていける。

特定非営利
活動法人
子育て・子育て
NPOスコップ

想い

母親の育児負担を少しでも解消したい。男性の育児参加への啓発を図りたい。

強み

プロジェクト運営に実績があり、広報ツールやネットワークも充実している。

リトルハウス

想い

父親と子どもの関係性を深め、主体的な育児参加を行ってほしい。

強み

野外活動の遊びメニューを数多く持っており、得意の活動としている。

地域

×
NPO
市民活動団体



事例⑥：地域の困りごとを住民がサポート

協働事例（1998年～現在）

地域で、独居の高齢者が増えてきた。そんな方たちが安心して地域でイキイキとした生活が送れるよう、「一ツ木わかば会」が地域交流の場「なごやかサロン」を開催している。



住民の成果

市民活動団体の成果

刈谷市
一ツ木地区
住民

想い

一人暮らしになっても、話し相手がいるまちであってほしい。

探す

気軽に話せる人、地域の人と交流できる場所を探していた。

困りごとを相談できる先が地区内にあるため、安心して暮らせる。

ご近所の顔が見える関係づくりができ、地域のつながりを強くしている。災害時にはネットワークの強さが活かされる地域である。

一ツ木
わかば会

想い

地域住民が暮らしやすいまちにするため、安心して暮らせる仕組み・場所をつくりたい。

強み

地域の人からなるサークルで、交流の場を提供している。

NPO
市民活動団体
×
NPO
市民活動団体



事例⑧：未就園児と親向けの防災講座を開催！

協働事例（2008年）

育児サークルこいぬ（0歳児から3歳児の子どもを持った母親グループ）は、地域の防災訓練に参加する機会がなかったため、刈谷市赤十字奉仕団の協力を得て、子ども連れでも参加できる防災啓発講座を開催した。



市民活動団体の成果

市民活動団体の成果

育児サークル
こいぬ

刈谷市赤十字奉仕団

楽しく救急法の知識や技術が学べた。子どもと一緒にできる防災活動を今後も行っていくことになった。

持っている知識と技術を広く市民に伝えることができ、また自団体のPRができた。

育児サークル
こいぬ

想い

サークルで、子どもと一緒にできる防災啓発活動をしたい。

探す

子ども連れでも可能な防災に関する講座を行ってくれる講師を探していた。

刈谷市
赤十字奉仕団

想い

日頃なかなか防災訓練や講座に参加できない若いお母さんたちにも啓発活動を行いたい。

強み

防災、救急法の知識が豊富なメンバーの集まりである。